

大正六年
一月二十七日

受03335號

第一門

公第三一號

大正六年一月二十七日

在支那

特命全權公使男爵林權

外務大臣法學博士子爵本野一郎殿

日支兩國關係ニ付キ支那

新聞記事「報告」件

一月二十二日北京發行ノ公言報ハ「中日親善ノ動機」ト題シ大要カ如キ記載ヲ為セ

日本寺内内閣執政以來大隈前内閣ノ

在支那日本公使館

為ス所、及ニ其對支外交ヲ刷新セントハ各方面ヨリ已ニ其端倪ヲ露セルモ惟タ日支ノ親善ハ實際上ヨリ入手ニテコソ支那側モ日本ノ真意ヲ了解スヘシト毎ニ其機會ヲ待チシカ聞ク所ニヨレハ日本政府ハ日前一密使ヲ來支セシメ我當局ニ對シ日本對支ノ新方針ヲ説明シ云ク親善ヲ實行セトセハ兩國民生經濟上ノ關係ヨリスヘク此目的ヲ達スルハ先ツ支那政府ニテ幣制及稅則ノ改良ヲ為サルヘカラス幣制不良ナレハ兩國民握手ニ不便ニ稅則過重ノ結果日本商業ハ間接ノ影響ヲ受ク支那政府力能ク日

大正六年二月五日 接覽

註發書

第一課

日支關係

MT

11212

01702

MT

11212

01701

本ノ誠意ヲ容認セハ幣制規則ノ改
 善ヨリ着手スヘク其資本金ノ如キハ日
 本ヨリ貸出スヘシ日本國庫ハ現ニ六億
 万圓ノ餘裕アリハ此種改善ニ資シテ
 餘アリ若シ支那カ日本ノ勸告ヲ認容
 スル能ハサレハ兩國ノ親善ハ一ノ空談ニシテ
 何等ノ實際ナク日本ハ仍チ大隈内閣
 ノ後塵ヲ歩ム浪人等ト亂墮相勾結シ
 テ政局ヲ擾亂スルニ至ラン云々ト按テ幣
 制規則ノ改善ハ我國十年來ノ主張
 嚮夕政爭ニ追ハレ着手ニ自ナカリシノ
 今我當局日本ノ勸告ニ聽キ其借款ニ
 ヲリ着手實行セハ國民ノ喜々所實ニ
 鮮少ニ非ヌ又隣國ノ親善ニ於テ一實際ノ
 機會ヲ得兩國ノ經濟期ニテ發達スヘシ
 吾人ハ吾政府ノ誠布公日本ト善意ノ
 交渉ヲ為サレトシ希望ス
 公言報ハ前ノ參政院參政汪有齡ノ經營ス
 ル所ト稱シ毎々及民黨ヲ以テ目サレ幣制
 餘孽等ノ機關トシテ今又段内閣ト脈絡
 アルモノト傳ヘラル前記事ノ密使云々トハ或ハ西
 原龜三ノ來京ヲ指シ製銜鼓吹スルモノトモ
 認ラレ候免ニ角陸宗輿等ノ東渡及當
 局等我方ノ對シ頻リニ吹聴スル經濟的連
 絡談ト共今後ノ趨行ニ俟ツヘク何等御
 參考迄此段及報告俾也

在支那日本公使館

MT 11212 01704

MT 11212 01703

(私)

第2門

大正六年二月五日馮國璋が新橋榮次郎

ニナレタル談話要領

一 寺内伯爵ニ関シテ(約二十年前最初ノ陸軍留學生トシテ貴國ニ赴キ居テ公使館内ニ定メ一週ニ一度ツ、士官學校ニ戰術ヲ學ビヒタリシ當時初メテ接シタル貴國武官中ニ深キ印象ヲ與ヘラレタルニ各アリ一ハ川上將軍ニシテ他ハ寺内伯爵ナリ、川上將軍ニハ其講演ヲ聞キ其識見ノ大ニハ今猶ホ敬服スルトコロニテ又寺内伯爵ハ當時ノ士官學校長ナリシタノ帝ニ接近シ其指導ヲ受ケタリ故ニ全伯が帝ニ誠意ヲ以テ人ニ接シ又誠意ヲ以テ人ニ接スルニ夫ケンレ夫ケ不誠意ノ徒ヲ惡ム底ノ極メテ正直ノ人格ノ人タル事モ之ヲ知悉セリ去レバ全伯爵ハ今日首相トシテ貴國ノ政機ヲ握リ居ルハ、貴我ノ爲メニ悦フトコロニシテ予ハ素ヨリ全伯ニ對シテハ曾テノ如ク將來モ誠意ヲ以テ對セントス

貴下幸ニ此ノ意ヲ全伯ニ致サレヨ

一 支那政局ノ將來ニ関シテ現下支那ノ政局ハ混亂不統一ニシテ議會ハ帝ニ政府ト衝突シテ事トシテ地方又屢々中央ノ命ニ服セス國家ニ完全ノ統治ナキハ顯著ナル事實ナリ然レトモ此ノ確執タルヤ單ニ文筆口舌ニ止マリ干戈ノ間ニ存スルモノニ非ラス而カモ各省督軍省長間ニ政府擁護ノ聯盟成リ又各軍隊ノ内ニ危險ナル思想ノ播マルモノモアラザレハ予

在南京日本領事館

MT 11212 01706

MT 11212 01705

日支の交渉

ハ必ラスレモ貴説ノ如ク此ノ不統一ノ状態ノ永
ク繼續スベキヲ想像セス否寧ロ予一個ノ所
見ヲ以テスレバ外國ノ干渉外國ノ乱党ニ對ス
ル援助ヲ見サル限リハ政府ノ威力漸次増大シ
完全ニ近キ統治ノ實ヲ見ルヲ得ベシ但多ク之ヲ成
ス國家統治ノ根本法ヲ根本的ニ改正セザルベカ
ラサル次第ニテ殊ニ議會ノ有スル政府彈劾權
ニ制限ヲ與ヘ大統領ノ議會解散權ヲ認ム
ルノ必要アルモ國民黨ノ反對ハ如此キ憲法ノ
制定ヲ妨ケ遠ニ望ミ能ハサルベシ蓋シ進歩党
ハ稍々國家ヲ解シ居ルヲ以テ彼等トノ調和ハ
比較的難事ニ非ルヤキモ國民黨ニ至リテハ單
ニ政權ニ憧憬シテ何等ノ定見方策乃至經
驗アルナク徒ニ政府ノ施政ニ反對シ眞ニ御シ
難キ徒輩ナルモ中央地方共ニ從來ノ所謂旧
官僚派ノ下ニ於テ彼等ニ其職ヲ與ヘ徐ロニ指
導調和ノ途ニ出ヅル以外ニ策ナカルバク貴説
ノ如ク武カヲ以テ一氣ニ彼等ヲ壓迫シ去ルモ
若シ政府ニシテ其實力アラバ亦一個ノ策ナ
ルベシ

一(國体ニ関シテ)現國体ヲ維持シテ將來永ク完
全ナル國家統治ノ實ヲ基キ得ルヤノ一事ハ
眞ニ至難ノ問題ニシテ予ハ之ヲ逆睹シ得ルノ
識見ナシ唯ガ吾人ノ執ルベキ策ハカヲ盡シ
テ此國体ヲ維持シツテ統治ノ實ヲ基クニ
在リ若シ將來此國体ヲ維持シ能ハザルニ至

在南京日本領事館

MT 11212 01708

MT 11212 01707

ランカ後人ニ自ラ策アラン

二日支ノ國交ニ関シテ鄭家屯事件ノ解決ニ
當リ日本カ多大ノ讓歩ヲナシタル事ハ予之ヲ
認メ且ツ這般ノ讓歩ハ日本カ支那ニ對シテ
好意ヲ表示スルタメナル事モ予ハ之レヲ解セ
リ去レハ先般青木將軍ノ來訪ヲ受ケタル
際予ハ同將軍ニ對シ日本ハ政治的事件ニ
於テ多大ノ讓歩ヲナセバ支那ハ經濟的事
件ニ於テ多大ノ讓歩ヲナシテ之ニ酬ハ以テ經
濟的聯盟ヲ作り歐州戰後東亞ニ殺到スベキ
彼等ノ經濟力ノ防止ニ備フルトコトナカラサルハ
カラサル所以ヲ歎々セリ是レ予ガ抱持スル兩
國親善ノ意見ナリ斯クノ如クセバ徹底的

在南京日本領事館

ニ兩國ノ親善ヲ致シ得ベシト信ス

一馮ノ日本訪問ニ関シテ貴下ニ於テモ見ラルルガ如
キ當國現下ノ情勢ナレバ今直ニ貴國ヲ訪問
スル事能ハサルモ貴國往訪ハ予ガ希望ナシカ
故ニ事情漸ク平穩ニ歸サバ目的ヲ達セン事
態ノ許スモノアリテ政府予ニ命スルアラバ予ハ
快諾シテ使節ノ任ニ當リテ貴國ニ赴クモノ
ナルヲ特ニ明言ス

MT 11212 01710

MT 11212 01709

附屬書類添付

大正六年二月 六日 發 第一課 政務局

第一課

別紙添附

機密第三六號

大正六年一月廿一日

淨書校原

在支那

特命全權公使 岩間 青林 謹助

南京 支那 總領事 官 印

通商局

號受1196 在支那 總領事官 印

文書課長

大正六年二月 十日 發

26

外務大臣 陸奥 宗光 閣下 切取 了 旨 取

大正六年一月廿一日 在 支 那 總 領 事 官 印

代 理 人 櫻 井 一 郎 送 付

支 那 中 學 七 級 科 書 中 抽 出 的 文

字 了 閣 下 切 取 了 旨 取

機密第三六號

大正六年二月 十日 發

大正六年二月 十日 發

在 支 那 總 領 事 官 印

MT

11212

01711

REEL No. 1-0061

0061

寫

機密 一 號

大正六年一月三十日

在支那

特命全權公使岩崎林權助

在福翁

領事館事務代理者田庄六郎

支那小學教科書中排日的

文字、例示几件

本件、因之於去年十二月廿七日付機密
費二七号貴信、以テ市申裁、裁了案
依テ別紙迄、通リ外交部へ嚴重の研
方交渉及至、右様申裁、裁了案

在支那日本公使館

大支那則田君接到、上の更、何分、願
テ中進、其後、不取散別紙、極端、中
進、也

不修字送付先 外務大臣

MT 11212 01713

MT 11212 01712

REEL No. 1-0061

0062

第一六号

逕啓陳者、竊以、大正四年中、貴國の學校
用作、文藝科書中、排日的文章、數あり、
已爲當時、前任日置公使、其、所、備、方、之、
之、貴、公、教、育、總、長、ノ、注、意、ヲ、得、テ、之、
順、交、最、近、在、府、有、帝、命、頒、布、シ、
此、の、日、也、之、
行、新、式、の、學、校、科、書、中、排、日、學、ノ、如、
排、日、的、記、事、書、之、中、近、來、貴、公、使、
ノ、関、係、折、角、一、層、一、密、切、親、善、ヲ、加、ヘ、ト、
之、心、傾、向、ア、ル、ヲ、恐、レ、貴、公、使、人、ヲ、之、
日、中、ノ、對、ス、ル、思、感、ヲ、排、日、煽、動、ス、ル、
ノ、使、用、也、之、ナ、ク、之、ノ、團、交、改、善、ノ、機、運、ヲ、

在支那日本公使館

實、ス、ル、ノ、虞、ア、ル、之、キ、ヲ、
學、生、童、ノ、腦、裡、ニ、染、ム、不、快、快、ナ、ル、感、想、ヲ、
印、象、セ、シ、ケ、ル、即、チ、永、久、感、ヲ、ハ、カ、ラ、サ、ル、排、日、的、
思、想、ヲ、貴、國、一、般、民、衆、ニ、普、及、浸、潤、セ、シ、
モ、之、ヲ、
之、障、害、ニ、
尙、品、品、交、上、而、由、帝、
又、ノ、
若、地、ニ、
傳、
市、
此、

任外交總長

大正五年一月廿五日

林公使

MT 11212 01715

MT 11212 01714

第3門

(秘)

秘文1401

大正六年二月十二日接受

警務部 第一課

二〇

浪心

大正六年二月四日

在吉林

領事代理 深澤



外務大臣法學博士子爵野一郎殿

星野師團長來吉ノ件

在遼陽第十七師團師團長星野中將ハ參謀宮澤大尉副官鶴瀨大尉ヲ隨ハ去ル一月三十一日午前主トシテ孟督軍ヲ訪問ノ為メ来吉セラレシガ右訪問ニ関シテハ豫テ當彼へハ

在吉林日本領事館

通知有之依テ督軍側ハ其趣申入レ置タル處孟督軍ニ於テモ先般来吉ノ高山都督府參謀謀長福原公主山領司令官一行ニ對セシト同様大ニ歡迎ノ意ヲ表シタリトテ招宴其他ニ關シ協議有之大体ニ於テ前回同様ニ取極メ置申候而シテ當日吉林停車場ニ孟督軍ノ意思ヲ受ケタル多數ノ軍官並ニ郭省長ヨリ冰シタル文官等出迎ハ午後一時督軍署ニ於ケル招宴ニ師團長一行ト共ニ長春ヨリ来ルニ張鎮守使(其勲)陶吉長道尹並ニ師團長来吉ノ為メ兩三日目前福隆泉ヨリ来合セ居タル任承長(福元)等ヲ加(其他)郭省長傳文渉員在吉高級武官外ニ小官外然澤大野兩書記

MT 11212 :01717

MT 11212 :01716

生ヲ合セ二十餘名ニシテ孟督軍ハ比日亦殆ニト
 前田同様ノ挨拶ヲナシ今後兩國ノ關係並ニ大
 局ノ形勢上提擧團結ノ最モ吃緊ニシテ將來
 兩國ハ存立上聯邦ノ外ナキヲ信スル旨ヲ述ヘ
 (此時傳交渉員ノ如キハ眼ヲ丸クシ驚キスル様子
 ニテ腹オ居リ節者長ハ俯向キニ默聴致居ル)之
 ニ對シ師團長ハ兩國密切ノ關係ニ就テハ
 孟督軍ノ所言ニ全然同意ニシテ今後貴方ヘキハ
 不言實行ノニ在ルハク自分ハ一介ノ武弁ニシテ政治
 外交ニハ國家自カラ其機関アリ督軍ニ於テハ
 既ニ善ク之ト疎通セラレ大局ニ就テモ可然顧念
 セラレ居ルコトト信ス尤モ昨年長春附近ニ於テ
 舉行シタル機動演習ノ際ノ如キモ卑劣ノ
 在吉林日本領事館
 在ル所單ニ演習其物ノミニ止マラス只今督軍
 ノ述ヘラレタル主旨ヲモ茲ニ體セシニ外ナラス又今後
 ニ於テモ貴我兩方面武官相互ノ往來交際ヲモ
 頻繁ニシ其親密疎通ヲ計ルハ最モ必要ナル
 ヘシトテ竹筒單ナレトモ力アル答辭ヲ述ヘ酒向軍
 樂隊ノ奏樂アリ撤宴後孟督軍ハ其應接
 室ニ於テ虎ノ大字數枚ヲ書シテ師團長及中官
 等ニ贈ラレ夫ヨリ高參謀長ノ密内ニテ市中見
 物後更ニ北山ニ登リ少時眺望ノ後一旦旅館
 ニ歸リ候而シテ其夜七時郭首長ハ軍人側
 ニ在リテハ高裴任三旅長(陶第三旅長ハ巡
 閱ノ為メ出張中)高參謀長又文官側ニ在リテ
 ハ傳交渉員陶道尹趙警務處長吉林縣

MT 11212 01719

MT 11212 01718

知事吉長鐵路局長其他ヲ陪賓トシ主客星
野中將以下隨員二名並ニ小官然澤大野兩書
記生等^(合計)計十八名ニテ郭省長ノ挨拶ハ畧
前田ト同様ナリ力只特ニ昨年機動演習ノ
際星野師團長閣下ニ於テ我文武官ヲ招待
セラシ隔意ナク待遇セラシ就中沿途ニ於ケル
我農商細民ニ對シテハ細心ノ注意ヲ拂ハシ愛
撫ノ意ヲ寓セラレタル處置ハ尙對事大小ト
ナク報告ニ接シ居衷心佩服ニ堪ヘカリ所ナリシ
ニ今回特ニ土地ニ由來訪アリ將軍ノ威容ト
其温情ニ接スルヲ得タルハ欣悦ニ堪ヘストノ揆
抄アリ之ニ對シ師團長ハ立チテ本日着^吉
以來文武各官ノ誠實ナル款待ヲ受ケ尙

在吉林日本領事館

書ハ孟督軍ノ高説ヲ拜聴スルノ榮ヲ得タルカ
今又省長閣下ヨリ懇篤ナル由言葉アリタルニ對
シテハ敢テ當ラサルト同時ニ感謝ニ堪ヘス尙今後
貴我ノ關係ニ就テハ既ニ孟督軍ニ由答セシ際
省長閣下ノ聞及ヒノ通りニテ別ニ他言ヲ贅シ
得タルニ付右ニテハ諒察アラント希望ニ堪ヘス茲
ニ深ク本夕ノ由好意ヲ謝ストノ簡單ナル答辭
ヲ述ヘラシ夫ヨリ主客歡談撤宴後應接室ニ於テ
一同撮影シ十時ニ至リテ散^レ候
翌二月一日午前十時半孟督軍郭省長傳
交渉員等星野師團長ヲ領事館ニ答訪
シ十一時半小官ノ催キテ宴席ニ入り星野師
團長一行孟督軍郭省長傳交渉員裝

MT

11212

01721

MT

11212

01720

鎮守使任旅長陶道尹高參謀長陳顧問
 等主客十二人ナリニカ酒間十官ヨリ星野師團
 長ノ来吉ニ際シ督軍省長ヨリ受ケタル多大
 ノ歡迎ニ對シ其好立見ヲ對シ併セテ今後兩國
 官民間益々親睦ヲ重ネンストテ切望スル旨單
 簡ニ述ヘタルニ對シ孟督軍並ニ星野師團
 長ヨリ鄭重ナク答辭アリ夫レヨリ主客閑談
 ニ入り孟督軍ヨリ師團長ニ對シ其経歴談
 ヲ初メ其文ニ旨十八カ為メ大ニ苦心レタルストナド語
 リ出テ裝鎮守使間々日本語ニテ諧謔ヲ試ミ
 一々大ニ打解ケテ時ニ至リテ散シ師團長一行ハ
 多敷支那文武官ノ見送リヲ受ケ停車場
 プラットフォームニ於テ高鎮守使ノ準備ニ依リ
 在吉林日本領事館

一同紀念ノ為メ撮影シニ時二十五分發列車ニ
 搭シ一行長春ニ帰還スル也
 右及報告候敬具

寫送付先 在支帝國公使

MT 11212 01723

MT 11212 01722

第2門

陸軍部

第1422號

陸軍部附

大正六年二月十二日接受

陸軍部參謀第貳 八號

管轄

第一課

特號ノ件報告

大正六年二月七日關東都督府陸軍參謀長高山公通

外務次官幣原喜重郎殿

別冊特第四號及報告候也

陸軍部
陸軍部
陸軍部

陸軍部

MT

11212

01724

REEL No. 1-0061

0068

特

第四號

大正六年二月七日

關東都督府陸軍參謀部

目次

張作霖ノ渡日希望

MT

11212

01725

REEL No. 1-0061

0069

張作霖ノ渡日希望

寺内元帥ノ内閣組織以來張作霖ハ東遊ヲ試ミ親シク寺内首相ニ敬意ヲ表セントノ希望ヲ抱キ屢々之ヲ昵近者ニ洩セリ而シテ吾人ハ之ヲ以テ邦人ニ對スル阿諛佞辯ト看做シ敢テ留意スル所ナカリキ然ルニ彼ハ東遊ノ志勃々トシテ禁スル能ハス曩ニ孫旅長ヲ北京ニ派遣シ更ニ楊參謀長ヲ急遽晋京セシメテ段總理ノ内意ヲ伺ハシメシカ遂ニ其ノ同意ヲ得サル

カ如シ

抑々張作霖カ東遊ニ熱中スルニ至リシハ一月十六日邦人西原龜藏ナル者寺内首相ノ添書ヲ携ヘ張作霖ヲ訪問セシ際偶々張作霖ヨリ東遊ノ希望ヲ述ヘシニ西原ハ是我寺内内閣ノ熱望スル所ニシテ日本ノ上下亦大ニ歡迎スヘク且日支親善ノ爲ニモ有益ニシテ目下其ノ好時期ナリト説キ東遊ノ期速カラシムコトヲ勸メタルヲ以テ動機ト爲スト云フ

MT

11212

01727

MT

11212

01726

斯テ張作霖ハ孫旅長ヲシテ渡日意
見書ヲ段總理ニ致サシノ同時ニ己ノ
縁戚タル講武堂長鮑貴卿ニモ意圖ヲ
傳ヘテ斡旋セシノタリ然ルニ段總理ハ一
國ヲ代表スル遣外使節ニ地方官ヲ以
テヤシコト未タ其ノ慣例無キノミナラス目
下國內ニ於ケル各界各黨ノ輿論ハ著
シク昂奮沸騰シ一小事件タリトモ直ニ
採テ以テ政争ノ具ニ供シ今ヤ政府
ハ其ノ攻撃ニ堪ヘサル情況ニ在リ殊ニ
遣外使節ノ如キ其ノ必要ヲ認ムルニ

於テハ政府自ラ慎重審議シ人選ヲ
為スヲ條理トスト穩ニ之ヲ拒絶セリ然
レトモ張作霖ハ尚渡日ノ決心ヲ翻シ難
ク各幕僚ニ之ヲ諮リ此際個人ノ資
格ヲ以テ軍事研究ヲ名トシ視察ノ
為往復ニ週間ノ豫定ヲ以テ日本觀
光ノ許可ヲ請フヘシトノ議一決シ再
ニ楊參謀長ヲ特派シ段總理ニ之ヲ
面陳セシノタリ然ルニ段總理ハ依然ト
シテ之ヲ喜ハス且曰ク奉天省ノ秩序ハ
未タ全カラス蒙匪ハ今尚邊境ニ潛在シ

MT

11212

01729

MT

11212

01728

馬賊ノ被害亦甚カラス殊ニ今春參
衆兩院議員ノ選舉アリ督軍トシテ將
又省長トシテ一日モ奉天ヲ離ルヘカラ
サルナリ況ヤ滿蒙ニ於ケル隣邦トノ交
渉ハ常ニ中央ニ於テ之ヲ處理シ近ク
鄭家屯事件ノ解決ヲ告ケタル今日
奉天省長官自ラ渡日スルノ用務ト必要
トヲ認メス若シ強テ東遊ヲ欲セハ之ヲ
阻止スルニアラサルモ尚能ク熟考ノ上渡
日ノ用件及目的等ヲ詳悉シ正式ニ申
請セハ之ヲ裁決スヘシト答ヘタリ茲ニ

張作霖ハ躊躇逡巡未タ何等決定スル
ニ至ラスト云フ

由來張作霖ノ人トナリヤ亦一支那人ニ
シテ自己的觀念極メテ強大ナリ故ニ
段總理ノ言實ニ張作霖ノ希望ヲ放
擲セシムルニ足ルヤ明カナリ然リト雖張
作霖ハ既ニ窮鳥懷ニ入ルノ類ナルヲ以テ
吾人ハ宜シク彼ヲ利用セサルヘカラス
彼ハ目下尚中央政界ニ蘄然タル勢力
ヲ有セス且段政府ノ信賴未タ厚カラス
而モ位勲官職ニ於テ地方的ニ重キヲ爲

MT

11212

01731

MT

11212

01730

ス故ニ吾人ハ彼カ東遊ノ志アルニ當リ
 之カ達成ニ努力ト援助トヲ惜マサルヲ
 要ス蓋シ彼ヲシテ光彩陸離タル帝國
 ノ文物風土ニ接セシメ其ノ満足ト欣慕
 トヲ印象セシメシカ未タ帝國ノ眞價ヲ
 賞翫セサル幾多支那大官ニ與フル感
 興決シテ鮮少ナラサルヘシ果シテ然ラハ
 則チ彼等ノ好奇心ヲ湧起シ陸續日本
 觀光ヲ試ムルニ至ラン是日支親善ノ一
 階梯否寧口好乎ノ實現方策ニアラスシ
 テ何ソヤ

本書發送先

參謀次長 陸軍次官 外務次官
 支那公使館附設官 関東都督府附設官 独立守備隊司令官
 第七師團參謀長 支那派遣隊司令官 青島守備軍參謀長
 奉天總領事 上海松井中佐

MT

11212

01733

MT

11212

01732

第04093號

通商局



公第二

號

大正六年二月十二日接

書政務局

第一課

大正六年二月六日

在奉天

總領事 赤塚正



外務大臣法學博士子爵本野一郎殿

中日親善會ヲ閉カントスル支那新聞記
事ニ関スル件

當地方支那官民間ニ鄭象化事件交渉顯未發
表以來其ノ無事解決ヲモテ其ノ風相見ハ英慶本
月百ノ東三省公報及本月六日ノ醒時報紙上ニ中日
親善會ヲ閉キ兩國人間ノ意思疏通ヲ圖リ後

在奉天日本總領事館

未ノ誤解ヲ一掃シ將來ノ紛糾ヲ免レシメントテ別紙
談文ノ如キ記事ヲ掲載致居矣本記事ハ支那官
憲側ヨリ出デシモノナラント思料致居矣本記事ニ関
スル菊池中佐ノ質問ニ對シ張督軍ハ將來鄭象化
事件ノ取極事項先了後ハ斯ル機關ヲ設ケテ日支
ノ親善ニ資スルノ必要アル者ヲ答ヘタル由ニ有之矣右
及御報告矣敬具

本信寫送附先

在支公使

MT 11212 01735

MT 11212 01734

將ニ中日親善會ヲ開カントス

一開會ノ希望、中日新條約成立以來兩國ノ感情相
疎隔セシガ近頃兩國ハ鄭家出交渉事件ニ関シ世
界ノ大勢及親善ノ本旨ニ鑒ミ互ニ讓歩シテ迅
速ニ解決スルコトヲ得タルヲ以テ我國當局及在日紳
ハ永遠ノ親善ヲ圖ラントス永遠ノ親善ヲ圖ラント
欲セバ理由ナキ猜疑ト一切ノ障礙ヲ排除シ平日ニ於
テ相聯絡シテ始メテ其目的ヲ達シ得ベシ因ソテ
取極一切ノ手續ヲ完了シ日本兵ノ四平街鄭
家出問ニ在ルモノ全部徹撤退セル後ハ中日親
善會トスルモノヲ開キ支那側ニテハ軍政學教工
商紳民日本側ニテハ領事工商團體居留民
志願者ヲ入會セシメントス

在奉天日本總領事館

一開會ノ主旨 此會ハ中日兩國官紳當局ヲ以テ主
体ト爲シ意思ノ疏通ヲ圖リ將來ノ障礙ヲ説明
排除ス

一凡テ日本居留民ニシテ支那人間ニ雜居スルモノハ法律規
定ニ從フハ勿論誠心ヲ以テ相處スベシ

一支那人民ハ一切ノ誤解ヲ開釋スルノ義務アリ

一中國官紳ガ危害及不適當ノ事件ヲ處理スルニ

當リ中日兩國民間ニ少シモ差別アルヘカラズ

一中日兩國民間ノ法律ニ依ル行動ハ兩國共之ヲ優遇

シ若シ法律ニ違フモノハ兩國共之ヲ拒絕スベシ例ハ支

那人違法逃犯及詐術取財ノ土地賣買カニテ第三者ヲ

害スルモノハ日本方面ト契約ヲ訂結シタルモノト虽日本側ニテ

其事情明カナルモノハ相當ノ拒絶ヲ爲シ以テ紛糾ヲ免レシムベシ

MT

11212

01737

MT

11212

01736

支那側ニテ此種ノ製好氏ヲ祭見シ日本人側ニハ損害ヲ蒙
レルモノアリタルトキハ必ズ此種ノ好氏ヲテ相當ノ賠償ヲ
為サシメ其損失ヲ補ハシムベシ
一兩國々民間ノ交際營業ハ務メテ一定ノ法律ヲ履ミ
先ツ届ケ出バベキモノハ届出ヲ以テ再々猜疑ヲ招ク事ト
ラ免ルベシ

在奉天日本總領事館

MT

11212

01738

REEL No. 1-0061

0076

第
門

(シテ四時)

20138

電報

參謀長宛

在

陸軍省
參謀長

取扱者

二月二十八日午前
三時二十分着

閣下親王ノ渡日ハ中止スルニトシテ決定セラル

陸軍

MT

11212

01739

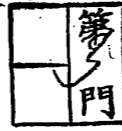
りふり

REEL No. 1-0061

0077



要目付了



秘受2428號

附屬書類添附

大正六年三月十日 接獲 駐政務局

第一號

官報第九五七號

大正六年三月五日

關東都督府民政長官代理佐藤友能

外務次官幣原喜重郎殿

日支國際關係心得方ニ付別紙、通内訓
相成候ニ付、以テ参考迄及、以テ通報候也

關東都督府

MT

11212

01740

内訓第四號

民政署長
民政支署長
事務官

滿洲駐劄部隊及警察官等ノ服務ニ關シ服膺スヘキ要旨ハ近ク曩ニ訓示セシ處ナルモ日支國際關係ニ就テ更ニ一言セムトス抑支那ノ獨立及領土保全主義ヲ尊重スルハ東洋ノ平和ヲ維持スル所以ニシテ彼ノ政党政派ニ對シ不偏不倚ノ態度ヲ持シ兩

MT

11212

01741

國ノ親交ヲ増進スルハ極メテ緊要ノコトニ屬ス然レトモ特殊關係ヲ有スル南滿洲及東部内蒙古ニ於テ我利權ヲ擁護シ勢力ノ扶植ニ努カスルハ固ヨリ言ヲ待タサル處ナリ故ニ各官ハ能ク此ノ趣旨ヲ體シ殊ニ外交ニ關スル事項ニ就テハ一層我外交機關ト連絡シ互ニ具ノ職域ヲ侵スコトナク意思ヲ疎通シ齟齬扞格ヲ来ササル如ク注意シ以テ國際關係ノ益良好ナラムコトニ努ムルヲ要ス

MT

11212

01742

前速ノ趣旨ハ各官宜シク之ヲ適實ニ部下
將校警視等ニ指示シ實行上遺算ナキヲ期
スヘシ

大正六年三月五日

關東都督男爵中村覺

MT

11212

01743

REEL No. 1-0061

0080

大正六年三月十九日接獲
駐政務局 第一課

機密第一六號
大正六年三月十二日

在上海

總領事代理領事官補 原田萬治



通商局

秘受2754號

外務大臣法學博士子爵本野一郎殿

支那小學校教科書中排日記事、關スル件

本件ニ関シ客月二十五日附政機密送第六號貴信ヲ以テ御訓令ノ趣敬承致候早速當時ノ當地交渉員楊晟ニ嚴重申入ノ次第有之其後新交渉員朱兆宰ニ對シ屢々督促致置候處本日同交渉員ノ回答スル處ニ依リハ同人ハ過日中華書局支配人ヲ呼ビ寄セ當方申入ノ

在上海

次第ヲ嚴命シタル處本年一月三十一日附在支那林公使發閣下宛機密第三六號ノ通同公使ヨリ外交部へ御交渉ノ結果教育總長范源濂ヨリ直接當地中華書局へ嚴命ノ次第有之次期増収ノ分ヨリ當方要求ノ通訂正可致事ニ相成居候趣ニテ右訂正濟ノ上ハ更ニ當方へ通報可致旨言明致候此段回答申進候敬具
本信写送付先 在支公使 福州事務代理

MT 11212 01745

MT 11212 01744

りくふあ

附屬書類添附 大正六年三月廿八日接獲 對政務局 第一課 別紙

機密第二〇號

大正六年三月十九日

在間島

總領事代理領事鈴木要次郎

外務大臣法學博士子爵本野一郎殿

支那官憲ニ於テ排日文學

配付ノ件

當地方支那官憲ニ於テハ近來多少親日
ヲ口ニシ又ク留學生ヲ本邦ニ派遣スル
等ノ傾向有之供交其ノ内實ニ於テハ
排日氣勢容易ニ減退セザルモノ、如ク

在間島日本帝國總領事館

最近當館ニ於テ探知スル所ニ依レハ吉
林省公署政務廳教育科ヨリ延吉道
尹公署ヲ經テ各縣署及官立學校ニ別
紙写ノ如キ團耻紀念文ト題スル排日文
書ヲ配付シ来リタル事實有之供而
シテ各縣ニ於テハ其管下ニ居住スル支
那人有力者ニ對シテ切カニ廻覽セシメ
ツ、アリト、趣ニ聞及供
右為市參考茲ニ及市送付供條市查
閱相成度共段申進供 敬具

本信写送付先 在支公使 吉林領事

秘受3043號

第門

排日

MT 11212 01747 MT 11212 01746

國恥紀念文

不可說、不可說、中國的危險、到現今要算絕處了、國民的恥辱、到現今要算充分了、也不知道為什麼、受人家欺侮到這種田地、你看漢口華景街的交通還廢了局、奉天鄭家屯的條件接連發生、爭得還未結果、鬧去鬧來、不得收場、一波靡平一波又起、中國就是鈇羅漢、也經不起接三接四的病、咱們從近處的事、告訴我中國四萬萬同胞姊妹、鄭家屯這件事呢、他既突然闖進我營、開鎗亂擊我兵、作正當防衛、也就開鎗射擊、日人死傷九名、我兵死傷數十名、而且把我本處的知事、商會的會長、膽取捉去、還要袒護我國的蒙匪馬賊、一味野蠻的舉動、橫行霸道、他的心理、竟叫咱們不准動手、聽他們打死就是了、還有要求很多的條文、中國政府屢次不曾答應、交涉幾月、竟靡有抗拒的

在間島日本帝國總領事館

能力、已經應答幾個償罪的條文、這是國恥的件事了、美國人說日本打算利用這事、實行一種高壓政策、真是一語道破啦、咳、這種樣子、還有什麼公理、弱國遇着強國、竟靡有一點自主權、靡有一點自由權、這個奇耻大辱、咱們堂堂大國、以後還有面目與世界人相見嗎、然而吃一番虧苦、長一番閱歷、受一分恥辱、增一分志氣、世人大耻大辱是常有的、只要能知耻、人人要能知耻、國家也自然強勝、大家要知耻、就不能生奮發心、人心不奮發、雖然是日日講求自強、也是說空話、不能收實效的、所以說知耻為自強之本、給諸君舉幾個例吧、夏朝夏后氏、被羿稟所滅、夏太子少康逃於有仍地方、不過有田一成、有象一旅、他能收撫滅亡、廣布德教、訴說國耻、醒起人民、後來能夠重興舊業、又傳數百年之久、春秋時、越國被吳國佔據、越王勾踐

MT

11212

01749

MT

11212

01748

困在會稽地方，就卧薪嘗膽，每飯不忘仇敵，一面把滅國大耻告誡人民，一面把自强計畫訓練兵士，二十年後遂用三千軍隊復越，敗吳，又羅馬當西曆一千八百四十八年前法佔其西，奧侵其東，西班牙又把持其中央，山河破碎，國紀淪亡，後加富再出，宣論報張，彰揚國耻，日以獨立的精神，自由的主義，大聲疾呼，卒能喚醒國民，逐法摧奧，敗西班牙，重建新邦（就是如今意大利），這又是知耻收自强成效的，再若普魯士，當一千八百七十年與法蘭西開戰，被法人打個大敗，人民流亡，土地崩裂，國權受法人之限制，當時普人都含耻忍辱，發憤圖強，後來整軍經武，一戰勝敵，卒能重復舊業，雄飛世界，至今不稱強國（就是如今德意志），這也是知耻收自强功效的，由此看來，時代不論古今，地方不論中外，國家不怕有耻，人人能把國耻刻心不忘，民氣就靡有不振的，民氣能振，強敵自然心折，國靡有不強的，現今我國重々國耻，要自奮不要自餒，設使大家能知國耻，人人懷憤勇，這氣終究能出的，孔子所說的知耻近乎勇，就是這個意思，希望大家注意吧。

在開島日本帝國總領事館

中華民國六年二月十五日

吉林公署政務廳教育科

MT

11212

01751

MT

11212

01750



→ 第四種

秘受 3139 聯

大正六年三月卅日 接 駐政務局 第一課

陸軍部 憲法第七五號

支那方面 文領情況 報告 閣

二月十五日 附 吉林省 公署 政務廳 教

育科 延吉道 尹公署 經理 各縣 教

署及官立學校 別紙 譯文 如キ 國

力者 対シテ 回覽セシメタリト 有

報告 以上 通報 先
總督
陸軍大臣
軍司令官
内務書記官長

政務總監
參謀總長
師團長
内務次官

總務局長
關東都督
憲兵司令官
外務次官



11212

01753



11212

01752

日 文 交 入

最甚シテ彼ハ多大ノ要求ヲ我ニ
致シ交渉及月終ニ抗拒的能力ナク
答教ニ回ニ及ニ終ニ償罪的何ソヤ
セリ是國恥ニアテシテ何ソヤ米
ハ日本此ノ事件ヲ利用シテ一種
高壓政策ヲ實行スルモ消息ヲ破
此ノ一語ハ眞實ノ消息ヲ道破シ
ルモノナリ弱國ハ強國ノ爲ニ自
立ノ權ヲ奪ハル如斯辱ヲ受ク何
タル大國ニシテ

MT

11212

01755

中國ノ危瀆其ノ極ニ達シ國民ノ
云フニ忍ビサルナリ(中略)今中國
ハ同胞姉妹ニ鄭蒙屯事ヲ告ゲン
本兵ハ突然我兵營ニ闖入シテ發
兵ヲ乱撃シタルヲ以テ我ハ正當
トシテ日本ヲ撃テ人ヲ殺シ傷九
兵我兵ノ死傷亦數十名ニ達セリ
匪馬賊ヲ知事及南會々長ヲ拉去
保護加勢スル等蠻的ノ行動

MT

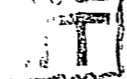
11212

01754

敵ヲ忘レス一面亡國ノ大耻ヲ人民ニ
 誠告シ一向自強ノ計畫ヲ為シ兵士ヲ
 訓練スルコトニ十年ニシテ終ニ三千
 ノ軍隊ヲ用ヒ吳ヲ敗リ越ヲ復興セ
 リ又羅馬滅亡后カブール出テ國耻日ヲ
 彰揚シ獨立的精神自由的主義ヲ唱道
 シテ大聲疾呼遂ニ國民ヲ覺醒シ填ヲ
 摧キ西班牙ヲ敗リテ新邦(今イタリヤ)
 建テタリ是耻ヲ知リテ自強ヲ計リタル
 結果カリ普魯西亞ハ一千八百七十年

11212 01757

面目アリテ世界ニ見ユルヲ得ン然レ
 トモ一分ノ耻辱ヲ受クルトキハ一分
 ノ志氣ヲ増スモノナリ能ク知ル
 人ハ能ク國家ノ耻ヲ知リ耻ヲ知ル
 ラサレハ奮發スル能ハス然レモ只
 發奮自強ヲ講スルノ能ハス然レモ只
 流レ何ノ效ナク是非共實效ヲ擧ク
 コトニ努メサルヘカラス(中畧)春秋ノ
 時越國ハ吳國ノ爲ニ占據セラレ越王
 ハ會稽ノ耻ヲ忍ビ卧薪嘗膽寸時モ仇

 11212 01756

佛國ト開戦シテ大ニ破レ人民流亡
 地崩裂シ國權ハ佛人ノ爲ニ制限セラ
 ル當時普人ハ皆辱ヲ忍ビ發憤自強
 回リ武ヲ整ヘ一戰敵ヲ破リ遂ニ能ク
 旧業ヲ回復シ雄ヲ世界ニ輝シ今至ク
 リテ強國(今、獨逸)ト稱セラル(中畧)現
 我國ハ屢國耻ヲ度ケ自奮自強ヲ計ラ
 サルヘカヲス諸君ニ能ク國耻ヲ知リ
 大ニ勇ヲ鼓シテ之ヲ雪クコトニ努メ
 サルヘカヲス云々

11212 01758

REEL No. 1-0061



りてふの如し

文書課長

大正六年三月卅一日接受

津島 校正

大正六年三月二十九日
同 年 〇 月 〇 日

大正六年三月卅一日發送

機密

機密送第五號

第一號主任

主管政務局長

第4門

本野大臣

左吉林

深澤 領子代理宛

支那官憲ニ於テ 桃日 文書記付ノ件

本件ニ関シ 左 同島 鈴木 總領子代理

ヨリ 三月十九日 附 樺 美 身 二 〇 号 以 下

本大臣宛 報告ノ 次第ハ 貴友ニ 送付ス

リタル 同 信 写ニ 依リ 市 知 知ノ 通ニ 有之ハ

最近 日 支ノ 關係 著シク 改善セシ 鄭 宗

屯子 件ノ 如キニ 彼 我ノ 互讓ニ 依リ 各

解決ヲ 告ケ 奉 支 那 政府 長ニ 於テ 已ニ 南 滿 洲

各地 友 害ヲ シテ 執 行 地 内 日 本 軍 民 礼

遇ニ 関スル 告示 文ヲ 頒 布 セシ 事

兩 不 親 善ノ 關係 漸 次 実 現 セラレシト

寫送本 正六年 三月 〇 日 號
機密送第五號
在 右 島 領 子 代 理 宛

機密

MT 11212 01760

MT 11212 01759

二、付、おきり吉林省の署政務廳教育
 科に於て、案の、柳日文書ヲ作年シ、管下
 各物署及山岳之署一配付スルカ、ルキ
 子實アルハ、書、甚、意外且遺憾ト
 スル所、自支兩省最近關係ナク、吉林省友黨ニ
 於テ、未、自支兩省最近關係ナク、解セカニ、登、
 モノカト、思、考、セ、テ、モ、交、何、シ、ト、モ、斯、
 様、望、折、角、良、好、向、ハ、ソ、ス、ル、お、名、也、
 阻、案、スルノ、甚、タ、レ、キ、モ、ノ、ナルニ付、貴、友、太、熟、
 以、テ、適、者、ノ、轉、入、於、テ、貴、地、友、黨、へ
 勧、告、ヲ、試、シ、シ、速、カ、ク、好、ム、柳、日、文、書、ヲ
 撤回セシメ、且、特、來、同、様、ノ、不、意、合、ヲ
 豫、及、ス、コト、ナ、キ、橋、ノ、並、市、交、渉、者、也、
 牛、及、河、令、也、
送、付、迄、 在、支、公、使、 在、同、島、總、領、事、代、現

外務省

MT 11212 01762 MT 11212 01761

REEL No. 1-0061

0090

りふふか

文書課長

大正六年三月卅一日接

大正六年三月三十日 別紙

同六年三月三十一日 大正六年三月卅一日發送済

機密

送第

號

第一

如

主管政務局長

本野大臣

寫送 大正六年三月十日

在長沙

機密送第二

堀り領事宛

機密送第六

排日文書板去方交渉ノ件

別紙切抜三月三十日発行ノ当地國

民新聞ニ掲載セラルモノニ有之ハ交

最近日支ノ關係著シク改善セリ中央

ニ於テモ地方ニ於テモ各般ノ問題ニ對

シ西必友民共ニ務メテ友交ノ精計

ヲ以テ接觸ノ所謂日支親善ノ關係

漸次實現セラルトシ時ニ當リ湖南省

内師範學校ニ於テ今日尚ホ公然

排日的文章ヲ掲示スルノ事定ムルノ間

ク事甚ク意外且遺憾ナリ

MT

11212

01764

MT

11212

01763

有之は右に於るは貴地方及民に於る
 未夕^一雨^二是^三最近、因^四係り十分
 知^五セサレカ^六為^七一昨年^八秋^九日^十運^{十一}部^{十二}部^{十三}部^{十四}部^{十五}部^{十六}部^{十七}部^{十八}部^{十九}部^{二十}部^{二十一}部^{二十二}部^{二十三}部^{二十四}部^{二十五}部^{二十六}部^{二十七}部^{二十八}部^{二十九}部^{三十}部^{三十一}部^{三十二}部^{三十三}部^{三十四}部^{三十五}部^{三十六}部^{三十七}部^{三十八}部^{三十九}部^{四十}部^{四十一}部^{四十二}部^{四十三}部^{四十四}部^{四十五}部^{四十六}部^{四十七}部^{四十八}部^{四十九}部^{五十}部^{五十一}部^{五十二}部^{五十三}部^{五十四}部^{五十五}部^{五十六}部^{五十七}部^{五十八}部^{五十九}部^{六十}部^{六十一}部^{六十二}部^{六十三}部^{六十四}部^{六十五}部^{六十六}部^{六十七}部^{六十八}部^{六十九}部^{七十}部^{七十一}部^{七十二}部^{七十三}部^{七十四}部^{七十五}部^{七十六}部^{七十七}部^{七十八}部^{七十九}部^{八十}部^{八十一}部^{八十二}部^{八十三}部^{八十四}部^{八十五}部^{八十六}部^{八十七}部^{八十八}部^{八十九}部^{九十}部^{九十一}部^{九十二}部^{九十三}部^{九十四}部^{九十五}部^{九十六}部^{九十七}部^{九十八}部^{九十九}部^百部
 遺物^一が其^二儘^三に^四加^五成^六る^七中^八に^九思^十考^{十一}す^{十二}所^{十三}に^{十四}思^{十五}考^{十六}す^{十七}所^{十八}に^{十九}思^{二十}考^{二十一}す^{二十二}所^{二十三}に^{二十四}思^{二十五}考^{二十六}す^{二十七}所^{二十八}に^{二十九}思^{三十}考^{三十一}す^{三十二}所^{三十三}に^{三十四}思^{三十五}考^{三十六}す^{三十七}所^{三十八}に^{三十九}思^{四十}考^{四十一}す^{四十二}所^{四十三}に^{四十四}思^{四十五}考^{四十六}す^{四十七}所^{四十八}に^{四十九}思^{五十}考^{五十一}す^{五十二}所^{五十三}に^{五十四}思^{五十五}考^{五十六}す^{五十七}所^{五十八}に^{五十九}思^{六十}考^{六十一}す^{六十二}所^{六十三}に^{六十四}思^{六十五}考^{六十六}す^{六十七}所^{六十八}に^{六十九}思^{七十}考^{七十一}す^{七十二}所^{七十三}に^{七十四}思^{七十五}考^{七十六}す^{七十七}所^{七十八}に^{七十九}思^{八十}考^{八十一}す^{八十二}所^{八十三}に^{八十四}思^{八十五}考^{八十六}す^{八十七}所^{八十八}に^{八十九}思^{九十}考^{九十一}す^{九十二}所^{九十三}に^{九十四}思^{九十五}考^{九十六}す^{九十七}所^{九十八}に^{九十九}思^百考
 致^一す^二所^三に^四思^五考^六す^七所^八に^九思^十考^{十一}す^{十二}所^{十三}に^{十四}思^{十五}考^{十六}す^{十七}所^{十八}に^{十九}思^{二十}考^{二十一}す^{二十二}所^{二十三}に^{二十四}思^{二十五}考^{二十六}す^{二十七}所^{二十八}に^{二十九}思^{三十}考^{三十一}す^{三十二}所^{三十三}に^{三十四}思^{三十五}考^{三十六}す^{三十七}所^{三十八}に^{三十九}思^{四十}考^{四十一}す^{四十二}所^{四十三}に^{四十四}思^{四十五}考^{四十六}す^{四十七}所^{四十八}に^{四十九}思^{五十}考^{五十一}す^{五十二}所^{五十三}に^{五十四}思^{五十五}考^{五十六}す^{五十七}所^{五十八}に^{五十九}思^{六十}考^{六十一}す^{六十二}所^{六十三}に^{六十四}思^{六十五}考^{六十六}す^{六十七}所^{六十八}に^{六十九}思^{七十}考^{七十一}す^{七十二}所^{七十三}に^{七十四}思^{七十五}考^{七十六}す^{七十七}所^{七十八}に^{七十九}思^{八十}考^{八十一}す^{八十二}所^{八十三}に^{八十四}思^{八十五}考^{八十六}す^{八十七}所^{八十八}に^{八十九}思^{九十}考^{九十一}す^{九十二}所^{九十三}に^{九十四}思^{九十五}考^{九十六}す^{九十七}所^{九十八}に^{九十九}思^百考
 内^一に^二指^三示^四せ^五る^六所^七に^八子^九を^十其^{十一}他^{十二}一^{十三}般^{十四}人^{十五}民^{十六}の^{十七}観^{十八}望^{十九}を^{二十}一^{二十一}面^{二十二}より^{二十三}他^{二十四}の^{二十五}面^{二十六}より^{二十七}観^{二十八}望^{二十九}す^{三十}所^{三十一}に^{三十二}子^{三十三}を^{三十四}其^{三十五}他^{三十六}一^{三十七}般^{三十八}人^{三十九}民^{四十}の^{四十一}観^{四十二}望^{四十三}を^{四十四}一^{四十五}面^{四十六}より^{四十七}他^{四十八}の^{四十九}面^{五十}より^{五十一}観^{五十二}望^{五十三}す^{五十四}所^{五十五}に^{五十六}子^{五十七}を^{五十八}其^{五十九}他^{六十}一^{六十一}般^{六十二}人^{六十三}民^{六十四}の^{六十五}観^{六十六}望^{六十七}を^{六十八}一^{六十九}面^{七十}より^{七十一}他^{七十二}の^{七十三}面^{七十四}より^{七十五}観^{七十六}望^{七十七}す^{七十八}所^{七十九}に^{八十}子^{八十一}を^{八十二}其^{八十三}他^{八十四}一^{八十五}般^{八十六}人^{八十七}民^{八十八}の^{八十九}観^{九十}望^{九十一}を^{九十二}一^{九十三}面^{九十四}より^{九十五}他^{九十六}の^{九十七}面^{九十八}より^{九十九}観^百望
 二^一供^二セ^三ラ^四ル^五ル^六に^七折^八角^九良^十好^{十一}の^{十二}向^{十三}ハ^{十四}ト^{十五}ス^{十六}に^{十七}雨^{十八}玉^{十九}を^{二十}交^{二十一}シ^{二十二}テ^{二十三}阻^{二十四}害^{二十五}ス^{二十六}ル^{二十七}に^{二十八}甚^{二十九}ク^{三十}モ^{三十一}ノ^{三十二}ナ^{三十三}ラ^{三十四}ウ^{三十五}付^{三十六}貴^{三十七}友^{三十八}ハ^{三十九}右^{四十}ニ^{四十一}趣^{四十二}旨^{四十三}ヲ^{四十四}以^{四十五}テ^{四十六}適^{四十七}当^{四十八}ノ^{四十九}機^{五十}會^{五十一}ニ^{五十二}於^{五十三}テ^{五十四}貴^{五十五}地^{五十六}友^{五十七}に^{五十八}實^{五十九}ニ^{六十}勸^{六十一}告^{六十二}ヲ^{六十三}試^{六十四}ミ^{六十五}ラ^{六十六}レ^{六十七}連^{六十八}カ^{六十九}ニ^{七十}テ^{七十一}枝^{七十二}を^{七十三}向^{七十四}フ^{七十五}シ^{七十六}テ^{七十七}右^{七十八}柳^{七十九}日^{八十}文^{八十一}書^{八十二}ヲ^{八十三}檢^{八十四}査^{八十五}セ^{八十六}シ^{八十七}テ^{八十八}杯^{八十九}の^{九十}然^{九十一}所^{九十二}ニ^{九十三}交^{九十四}渉^{九十五}ス^{九十六}ル^{九十七}所^{九十八}に^{九十九}實^百ニ^{百一}勸^{百二}告^{百三}ヲ^{百四}試^{百五}ミ^{百六}ラ^{百七}レ^{百八}連^{百九}カ^{百十}ニ^{百十一}テ^{百十二}枝^{百十三}を^{百十四}向^{百十五}フ^{百十六}シ^{百十七}テ^{百十八}右^{百十九}柳^{百二十}日^{百二十一}文^{百二十二}書^{百二十三}ヲ^{百二十四}檢^{百二十五}査^{百二十六}セ^{百二十七}シ^{百二十八}テ^{百二十九}杯^{百三十}の^{百三十一}然^{百三十二}所^{百三十三}ニ^{百三十四}交^{百三十五}渉^{百三十六}ス^{百三十七}ル^{百三十八}所^{百三十九}に^{百四十}實^{百四十一}ニ^{百四十二}勸^{百四十三}告^{百四十四}ヲ^{百四十五}試^{百四十六}ミ^{百四十七}ラ^{百四十八}レ^{百四十九}連^{百五十}カ^{百五十一}ニ^{百五十二}テ^{百五十三}枝^{百五十四}を^{百五十五}向^{百五十六}フ^{百五十七}シ^{百五十八}テ^{百五十九}右^{百六十}柳^{百六十一}日^{百六十二}文^{百六十三}書^{百六十四}ヲ^{百六十五}檢^{百六十六}査^{百六十七}セ^{百六十八}シ^{百六十九}テ^{百七十}杯^{百七十一}の^{百七十二}然^{百七十三}所^{百七十四}ニ^{百七十五}交^{百七十六}渉^{百七十七}ス^{百七十八}ル^{百七十九}所^{百八十}に^{百八十一}實^{百八十二}ニ^{百八十三}勸^{百八十四}告^{百八十五}ヲ^{百八十六}試^{百八十七}ミ^{百八十八}ラ^{百八十九}レ^{百九十}連^{百九十一}カ^{百九十二}ニ^{百九十三}テ^{百九十四}枝^{百九十五}を^{百九十六}向^{百九十七}フ^{百九十八}シ^{百九十九}テ^百

外務省

初稿 印刷 付

MT

11212

01766

MT

11212

01765

REEL No. 1-0061

0092

第 門

第09187號

公第一〇號

光緒六年四月一日發

第一課

大正六年三月十九日

在海龍日本領事公使

主任

古澤年十



外務大臣陸學博士子爵本野一郎殿

日本軍民禮遇之案之報告公佈之件
昨今物海龍各所揭示之告示之監督
軍之名ヲ以テ南滿洲州区域内之居住スル
日本軍民ニ對シテ礼遇ヲ施スル旨云
月六日付報告揭示被改テ其旨ヲ參

在俄嶺領事館海龍分館

考迄及非告知敬具

本信厚茲送先

在支公使 在支司令 領事

在支公使 領事

MT 11212 01769

MT 11212 01768

第2門

馮

秘受3760

大正六年四月十六日接受

第34

第課

第課

大正六年四月十日

在吉林

領事代理

深澤

星



外務大臣法學博士子爵本野一郎殿

支那官憲ニ於テ排日文書配布ノ件
本件ニ関シ三月卅一日付政機密送第五號貴信
ヲ以テ御訓令ノ趣致致承候依テ四月九
日午後二時郭省長ト面會シシ范顧問ノ同
席ニテ同省長ニ對シ御訓令ノ趣旨ニ依リ
申述ヘ且ツ是迄同省長ノ日本ニ對スル國

在吉林日本領事館

交上抱持セル主旨等ニ就テハ屢次報告シ
ルコトアリ例ヘハ高山參謀長星野師團長
等ノ來吉ニ際シ其接待宴等ニ於テ省長ノ
演述セシ所ノ如キモ詳シク申報ニ及ヒタル
コトアルニ拘ハラズ斯ノ如ク其部下ノ官署
ヨリ公然排日的文書ヲ管下ニ配付セル
事實アルニ於テハ本官前ヤノ報告ノ如キ
モ單ニ酒間ノ閑話ニ信ヲ置キ過ヤ申報其
實ヲ失シタルコト、ナリ遺憾ノ次第ナル
旨ヲモ附言致シ該排斥文書ヲ同省長ニ示
シタル處同省長ニ於テハ一見直千ニ右ノ如
キ文書ハ決シテ政務廳教育科ノ發シタル
モノニ非ズト非認シ其理由トシテ吉林省長

日方分考

MT

11212

01771

MT

11212

01770

公署ニ於テハ他ノ各省ニ於ケル例ト均シク省内各縣ニ何等通令ヲ發スル場合ニ於テハ必ず省長公署ノ名ヲ用キ單ニ内部ノ分科ニ過キサル科名ヲ用キテ訓令ヲ發スルコトナリ又必ず該文書ニ番號ヲ附スルヲ恒トスル次第ニシテ且ツ該文書ノ内容ニ至テモ甚ク粗俗ニシテ穩カナラス右ハ恐ラク公民會等ノ私人團體ニ於テ教育科ノ名義ヲ冒用シタルモノナラント察セラルハニ付直々ニ命ジテ之ヲ查明セシムベク又延吉道尹ニ對シテハ斯ル印刷物ノ配付ヲ禁止スベキ旨命スベシト答ヘ尚同省長ニ於テハ過般中央ノ命令ニ依リ雜居區域内ニ於ケル日本人ニ

在吉林日本領事

對シ特ニ注意シテ優遇スベキ旨通達ニ及ヒ置タル次第ニシテ若シ一面ニ於テ斯ル排斥的文書ヲ官廳自身ニ於テ配付セリト云フカ如キハ其矛盾モ甚クシキコトニシテ斯ル事アル筈ナク尙最近日支西國間ノ國交益々親善密切ヲ加ヘ来リ一例ヲ擧レハ頃日汪特使並ニ交通部派遣員等ニ對スル日本朝野ノ好遇接洽ノ如キ支那側ノ面目トシテ大ニ歡フベキ事ニシテ同省長自身ニ於テモ今後及ハズナカラ西國間ノ親善ニカク教シタキ志望ナルニ付右諒トセラレタシト申居候要スルニ本件ニ就キ小官ニ於テ述ヘ傳ヘタル御訓令ノ趣旨ニ對シテハ郭省長ニ於テ鄭重

MT

11212

01773

MT

11212

01772

ニ之ヲ聞取リ且ツ快ク同感ヲ表シ居タル次第
ニ有之何レ書面ヲ以テ申越シ来ル答ニ有
之候間其上ニテ更ニ可申進不取敢此段及報
告候敬具

寫送付先 在支帝國公使、在間島總領事代理

在吉林日本領事館

MT

11212

01774

要
複
書
濟

副參政官

參政官

文書

會計

人事

通商

政務

次官

大臣

電信課長

トビ

三四九時

本野外務大臣

林公使

北京發 大正六年四月十九日 午後九三〇
本省着

近來日支間、關係改善シ汪特使一行對スル日
本ノ誠實ナル歡迎並ニ交通次長一行對スル
歡迎振、如キ日本朝野ノ支那對シテ有ル
好意ノ徵証ニ外ナラズ吾人々之ヲ以テ日本政治家
カ日支共同ノ必要ヲ覺知シタルニ依ルモノト思
考ス兩國人ノ國家的希望地理及同種
關係共同利益等ハ兩國ヲシテ不和ナラ

本野外務大臣

MT

11212

C1776

要
複
書
濟

副參政官

參政官

文書

會計

人事

通商

政務

次官

大臣

電信課長

トビ

三四九時

本野外務大臣

林公使

北京發 大正六年四月十九日 午後七三五
本省着

四月十九日、北京、テリリー、ニース、ハ別電ヲ
五二三時、如キ社説ヲ掲ケ、今後、我對
支政策ニ對スル希望ヲ述、居ルニ付御參考
ノタメ電報ス

(奉天至由四月十九日 午後二)

本野外務大臣

MT

11212

C1775

要
復
書
濟

副參政官

參政官

文書

會計

人事

通商

政務

次官

大臣

市

電信課長

市

北平

北平發
本省着

大正五年四月九日

台九一〇

本野外務大臣

林公使

第五三三號 續キ

武力的征服ノ時代ハ既ニ過去トナレリ露國臨
時政府ノ布告ニ依ルモ世界ノ趨勢カ十年
前ト根本ヨリ相違ヲ来セルコト明白ナリ民心ヲ
基礎トセズ單ニ武力ヲ以テ他國ヲ支配スル
價値幾許ナリヤ征服セラレタル人民ハ決シテ征
服者ニ信服スルモノナラズ吾人ハ近來ニ於ケル
日本ノ態度ヲ以テ日本ノ公明ニシテ先見アル政

シムルヨリ寧ロ親密ナラシムルモノナリ支那富
考限ミシテ開發ヲ待テ幾多ノ殖産ニ普及スル
興スベキ運命ニ在リ吾人ハ日本ガ其侵略的政
略ヲ捨テ武力的征服ノ希望ヲ抛ケタル上吾人
ト共同シテ支那ノ原料品及ヒ鑛物ヲ利用セシ
コトヲ切望スルモノナリ(續キ)
(奉天經由大正五年四月十九日台三三〇)

MT

11212

01778

MT

11212

01777

治象が武力征服主義既時代進レナルコトヲ
昔知レタルニ依ルモノト認ム日本ノ為メニ謀ルニ
支那ノ領土ヲ占領スルヨリモ支那ノ歡心ヲ
収ムルニ更ニ多大ノ意義ヲ有セリ且願ニ永
續スルモノナキモ通商關係ノ發達ハ兩國
民相互ニ幸福ヲ享フベシ日本ニシテ偉大ナラ
ントセバ武力ニ倚ルヲ止メ平和道ニ依ルニ
慘憺タル獨逸ノ先見正ニ進歩的國民
ノ教訓ヲ吾人ニ豫テ日本人誌ニ日本政治

MT

11212

01779

家が支那ニ對シテ表彰シタル友情ヲ衷心
ヨリ歡迎スルモノナリ(終)
(奉天經由大正四年四月十九日三二〇)

MT

11212

01780

寫

大正六年四月十八日接受

機密第一六號

大正六年四月十八日

秘受第四二九〇號

在杭州
領事館事務代理 瀨上怒治

本野外務大臣宛

康有為、動靜、関レ報告ノ件
康有為ハ本月十日上海ヨリ、來杭西湖畔劉
氏別荘ニ逗留中ナリシカ、昨十六日當地拱宸橋ヨ
リ水上發着、乘舟、泅水、兵船、共知、鄞、橋、乘、レ、湖、州
ニ赴キ太湖ノ風光ヲ賞シ、蘇州ヨリ經テ上海、滬、甯
暫ク同地ニ滞在スヘシトノ事ナリカ者、地區留

外務省

中ハ楊督軍齊局長ト訪向ヲ交換シ周到ニ
款待ヲ受ケ且ツ滞在申ハ殆ント連日各國體ノ
盛大ニ歓迎宴ニ臨シタリ、南ク處ニ依レテ今由
ハ可成時与談ヲ避ケ、孔教ノ尊重、教育ノ普及
寺廟祠堂ノ保全及ヒ書畫骨董ニ關シテ、國ノ珍寶
トシテ自國人ニテ極力其保全ヲ企テセザル可カラ
ズ事ノ希望ヲナシ且ツ今會ヲ授シテ三珍品ヲ
購ホシタリト云、支那ノ恨商例加入問題ニ就
テ、婉曲ト云言辭ヲ以テ其不得策ナル理由ヲ
説キタリト云、三月六日官ヲ末才也、際ニ於テ
ハ、支那カ依然トシテ積極的活初ヲナシ能ハザ
ル、今、其、私、説、シ、中、國、之、通、合、セ、ザル、ヲ、證、明、ス、ル
モノナラン、其説シ公ニスルノ時機ニアラズ、今ハ唯

MT

11212

01782

MT

11212

01781

REEL No. 1-0061

0101

官民相力宿強久ノ道ヲ清完セサル可カラザルノ
 秋ナリ然ラカレハ中國ハ總テ在界ノ落伍者ノ
 ルノ外ナカルヘシニ日文親善ノ必要ハ今更ラ喋
 々ノ要ナリ極力其實現シ期セリ可カラズ三張
 勲ニ對シ吾人種ニ須迷守舊ノ老軍人トノ排シ
 ナスシアルニ之レ全然同將軍ヲ解之能ハサル
 スノ言ナリ猶同將軍ハ帝ニ是親善ノ
 要ヲ囑ハ極力其實現シ努力シマシ了四昨夕
 夏來板ノ節西湖畔ニ數畝ノ地ヲ購ヒ置キタ
 ルコトヲ今秋迄ニ一帯屋ノ建築ヲナスヘク目
 下設計中ナリトテ話ヲナレタリ
 右内報告中進言致具

外務省

外務省

MT 11212 01783

第3門

第4362號

附屬書類添附

大正六年四月卅日 接受

對政務局

第一課

第40號

大正六年四月廿三日

在吉林

領事代理

澤田 暹



外務大臣法學博士爵本野一郎殿

友那官憲ニ於テ排日文書配布ニ

關スル件

本件ニ關シテハ四月十日付機密公第三回號秘
信ヲ以テ及報告置候處其後郭有長ヨリ
前約ノ如ク別紙甲號寫ノ通り書面ヲ以
テ申越有之然ルニ右書面ニテハ聊カ不十分

在吉林日本領事

ノ感有之候ニ付別紙乙號寫ノ通り更ニ書面
ヲ認メ四月十一日他ノ用務モアリ熊澤書記生
ヲシテ持參セシメタル處范顧問ヨリ郭有長ニ
於テハ本件ニツキ既ニ善ク諒解シ居レルニ
付此種ノ事ニ就キ更ニ文書ヲ以テ公然抗議ヲ
受ケタル體トナルハ心苦シキ懸念モアルニ
付右文書ハ別ニ受取ラズニテ相濟ムコト出来
間敷ヤトノ相談アリタル趣同書記生ヨリ有
長公署電話ニ依リ申越アリ依テ右書面ハ仍ホ
其儘渡サシムコトト致置タル次第ニ有之候
處四月十五日付ヲ以テ郭有長ヨリ別紙萬丙
號寫ノ通り更ニ回答有之其翌々日更ニ范顧
問末館ノ上別紙丁號寫ノ通り延吉道並ニ交

MT 11212

01785

MT 11212

01784

涉署へ命令ニ及ヒアル旨、熊澤書託生ニ示シ行
キタル次第ニ有之候
別紙甲乙丙丁跡寫相添此段重ネテ及報
告候敬具
寫送付先 在支帝國公使、在間島總領事代理

在吉林總領事代理

MT

11212

01786

REEL No. 1-0061

0104

甲號

敬啟者頃承

見示鈴木領事囑查之國恥紀念文一節查六年
二月十五日教育科並無通行之國恥文且教育
科亦向無對外行文之事實此項紀念文不知
由何處發生已飭查明禁止本省長外交政
策向主和平劑

貴我兩國國交現正親善倘遇有此類文字在
社會中流傳無不隨時查察禁阻刻并切告
教育機關格外注意矣應請

函復鈴木領事知照實叙公誼此致

大日本駐吉領事深澤

附綴原件

吉林省長郭宗熙謹啟

在吉林日本領事館

MT

11212

01787

乙
殊

拜啓陳者吉林省公署政務廳教育科ヨリ延
吉通尹公署ヨリ經テ管内各縣署及官立學校
等ノ一ノ掛日文書ヲ配付シタル事實ナル件ニ関
シ三月中旬在簡島鈴木總領事代理ヨリ帝國
外務大臣ノ稟報ニ及ヒ同時ニ其寫留館ニ送
付有之假處茲ニ外務大臣ヨリ本件ニ関シ最
近日支兩國間ノ關係著シク改善セラルレ鄭家屯
事件ノ如キモ互讓ニ依リテ解決ス告ケ尚支那
政府ニ於テ既ニ南滿洲各地官署ヨリシテ難後
地内日本軍民禮遇ニ關スル告示文ヲ頒布セシ
メ兩國親善ノ關係漸次實現セラレトスルノ時
ニ當リ吉林省政務廳教育科ニ於テ密カニ排
日文書ヲ作成シ管内各縣署及官立學校ノ配
付スルカ如キ事實ナルハ甚々意外且遺憾トシ
所ニ有之右ノ或リ吉林省官署ニ於テ未ダ日支
兩國最近ノ關係ヲ十分承知セサルト其テモ
カト思方セラルレモ斯レ措置ハ折角良
好ニ向ハントスル兩國間之ヲ阻害スルノ甚シキモ
ノナルニ付右ノ趣旨ヲ以テ其地官署ノ交際ノ上
速ニ斯レ掛日文書ヲ撤回シ且將來再ハ斯レ事
ナカシムルニ操勸告可拘成旨ノ訓令ニ據シタル
次第ニ有之候ニ本領事ニ於テ三月九日午後
二時貴省長ト御面會ノ上前記本領事ノ意ヲ
及ヒ訓令ノ趣旨可成ク兩國間之ヲ阻害スルノ甚シ
ク抱持セラルレ觀望ノ生ズルニ就テ送來ノ書次

在吉林省日本領事館

MT 11212 01789

MT 11212 01788

本國政府ノ報告ニシテハコトアルノ物ニ果シテ本件ノ
如キ下機文書絶分ノ事討究スルニ於テハニ成ニシテ
申報其討究ヲ失ヒシニ於テハ其ノ價値ニ據ルナリ
次第ナリ可クテ法ノミニ對シテ其討究ノ長ニ於テモ
上ノ機上可クテ討究メテ討究ノ可クテ其討究ノ
科ノ名長ヲ冒用シテモ一ニナシテ其討究ノ
具シ延吉強クニ討究メテ其討究ノ事討究ナリ
命令ニ尚其命令寫ルモ當カノ強クテ其討究ノ
ナリ可クテ討究ノ可クテ討究メテ討究セシメ
次第ノ有之候

上述ノ次第ニ有之本領事ニ於テ本件ニ對シ報
告ノ上都テノ事情ヲ明カスルニテ其事十白ニ候
向所掲各段ノ儀ニ對シ御申渡御討究御討究日
在吉林日本領事館

文書ノ既ニ書有長ニ於テ其ノ思相成ニテ一ニ
ニ分ニ送リ送リ送リ送リ送リ送リ送リ送リ送リ送リ
大正六年四月十一日

在吉林
領事代理 深澤 一 謹

吉林省長 對付 總 殿

MT

11212 01791

MT

11212 01790



丙號

逕覆者案准

貴領事函開

前由

前略查此事

貴領事到署晤談後當將事實並辦理大致情形函覆在案至此來函內稱本公署教育科密作撤日文一紙發布與延吉道尹公署所轄之各官立學校一節查本公署除直轄之省立各校外向不與各屬之官立學校直接行文教育科承辦本公署教育行政更無直接行文之權所稱發布之國恥紀念文一紙係由該科密作逕行延吉道屬各官立學校實為絕對不能有之事當係傳聞失實况貴我兩國現正親善如遇社會中有流行從前稍涉偏激言論無不隨時查察禁止茲准前因除再令行延吉道尹查明嚴禁外相應函覆

貴領事查照為叙此致

大日本駐吉領事深澤

署吉林省長郭宗熙

中華民國六年四月十五日

MT

11212

01793

MT

11212

01792

丁号寫

吉林省長公署訓令第廿四號百零六號

令 特派吉林交涉員吳宗濂
延吉道尹張世銓

案准駐吉代理日領深澤暹函用逕啓者云々
見西復為駁等因到署除函復查此事前與貴
領事到署晤談云云查照為紐等因印發
並令延吉道查禁外台函令仰該員即便知照此令
涉署外台函令仰該道即便遵照查明有無前項文書並隨時嚴
禁以免誤會仰寫印交切切此令

吉林省長公署

MT

11212

01734

REEL No. 1-0061

0109